

AFICAT設立経緯・進捗概要

■ 2019年8月

TICAD7において、アフリカビジネス協議会農業WGが提唱。官民連携でアフリカの農業機械化を促進するものとして立ち上げ。

■ 2020年4月～2022年2月

- 「アフリカ地域先進農業技術の導入促進にかかる先進農業技術の導入促進に係る基礎情報収集・確認調査」：対象5か国（ケニア、タンザニア、コートジボワール、ガーナ、ナイジェリア）で現地調査。AFICAT実施体制、活動内容を提案。

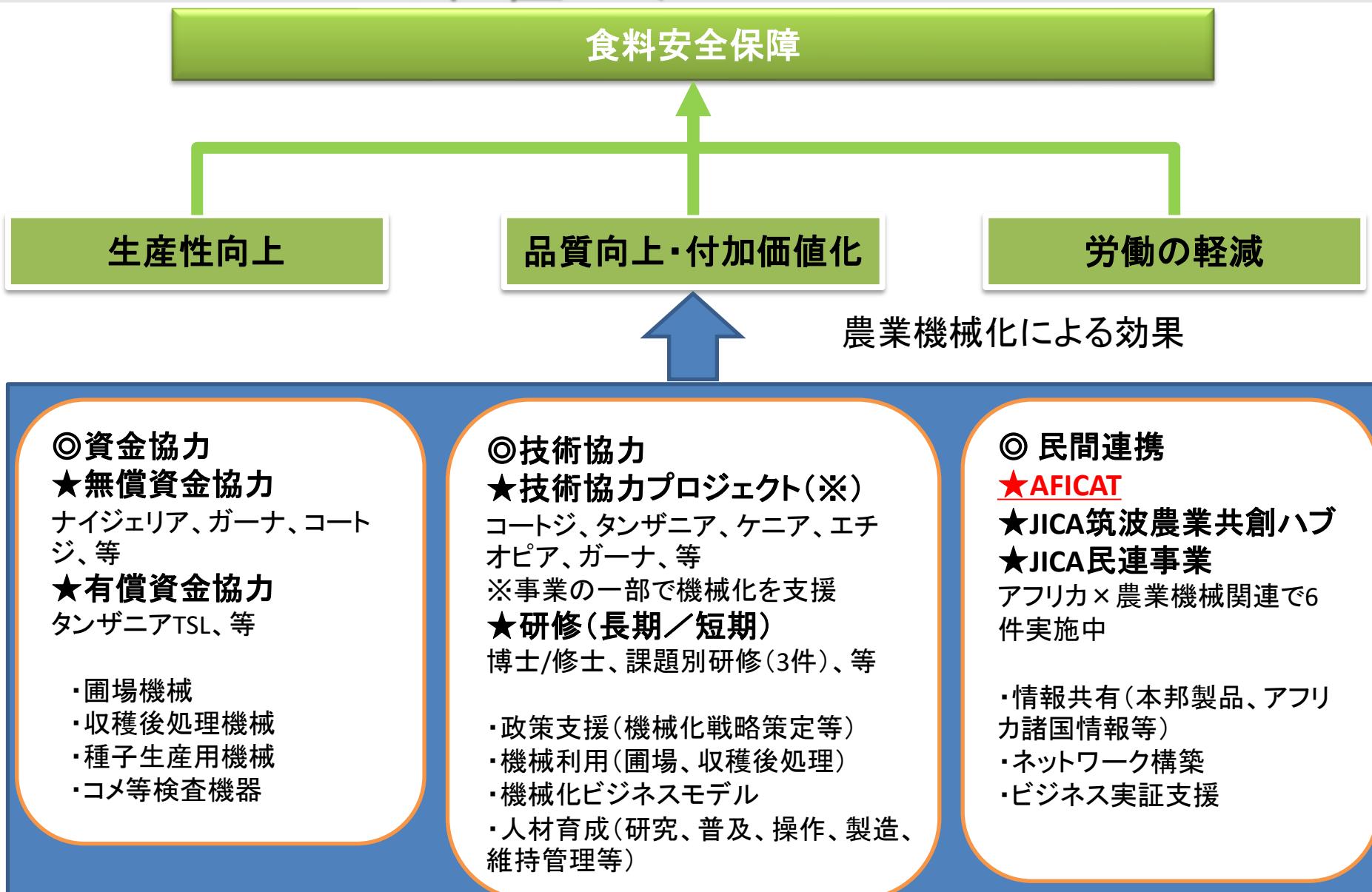
■ 2022年2月～2024年2月（現調査）

- 「アフリカ地域先進農業技術の導入を通じた農業機械化振興にかかる情報収集・確認調査」：対象5か国（上記同様）で試行活動を実施中。
- 2022年3月～2024年2月 ケニア農業機械アドバイザー派遣

■ 2024年2月～

- 「アフリカ地域先進農業技術の導入を通じた農業機械化展開に係る情報収集・確認調査」（公示中）を中心とした国内機能、及び
- 先方から要請の出ているAFICAT支援を含む個別専門家や技術協力プロジェクト等を通じた途上国側窓口との協働による海外機能、の組み合わせにより、AFICATをより強力に、かつ持続性を見据えて推進。

JICAによるアフリカ農業機械関連支援とAFICATの位置づけ



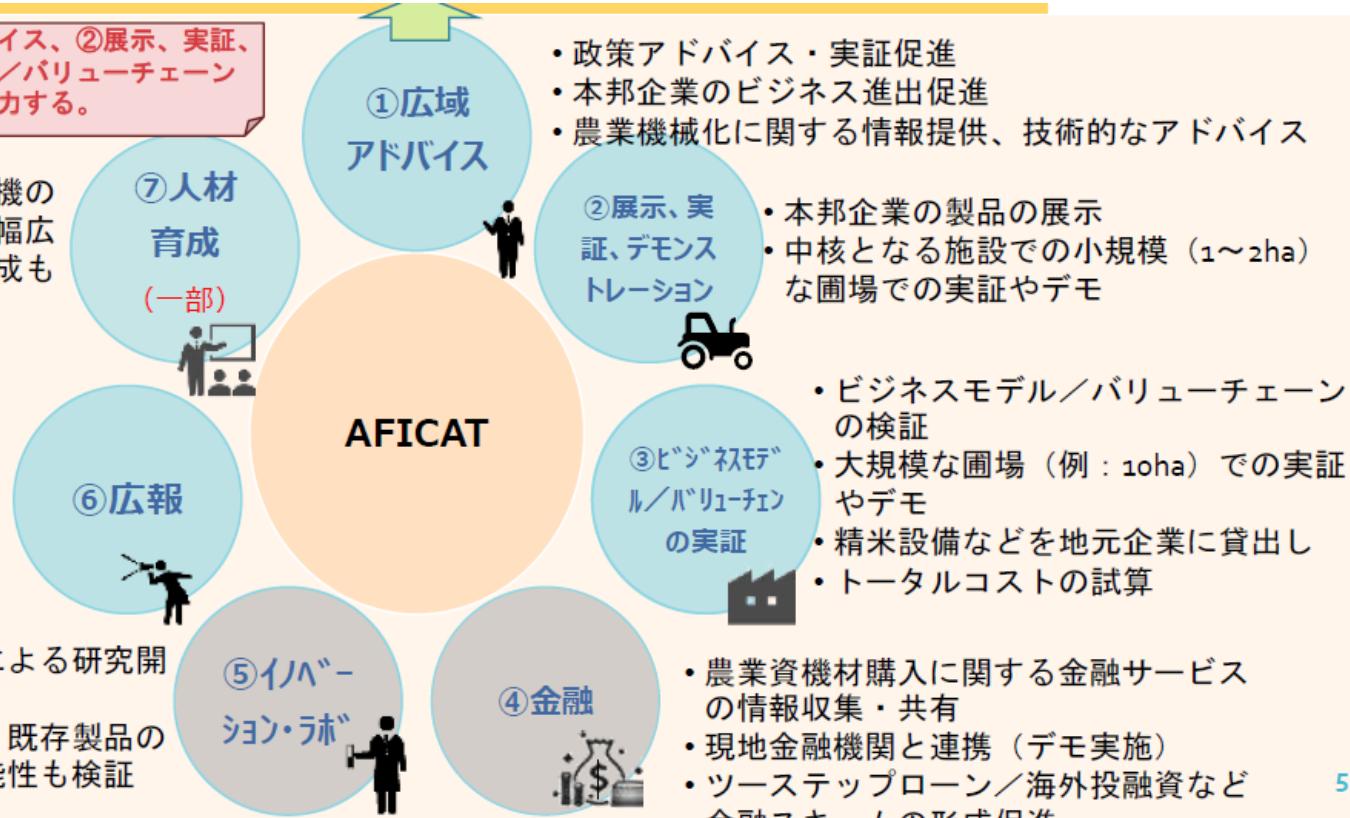
現調査による実績と課題（1）

パイロット事業では、主に、①広域アドバイス、②展示、実証、デモンストレーション、③ビジネスモデル／バリューチェーンの実証、⑥広報、⑦人材育成（一部）に注力する。

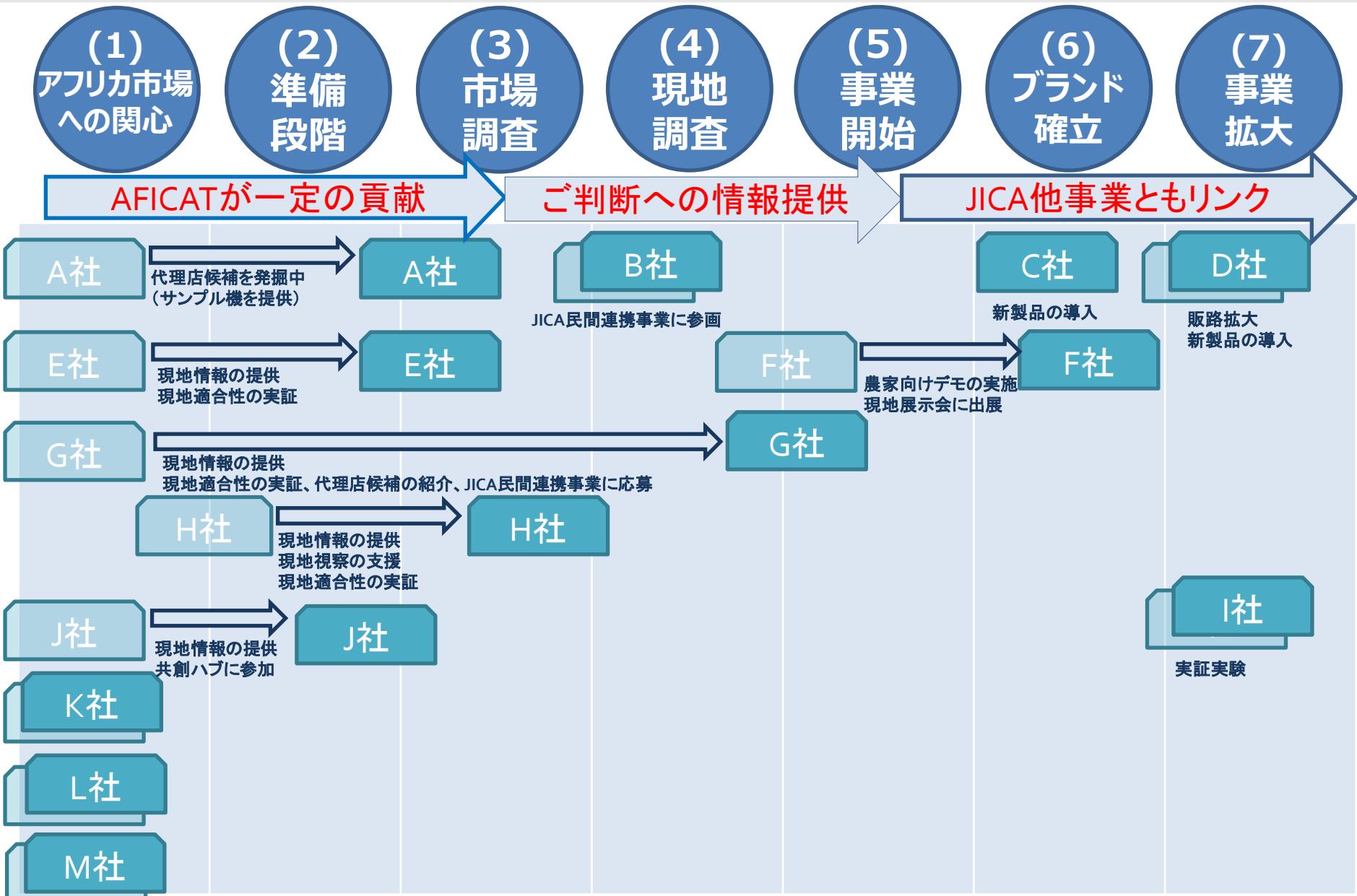
- 農業・農業機械化政策、農機のメンテナンスなどにかかる幅広い人材を育成（代理店の育成も含む）

- 実証試験やデモの結果などを広く外部に発信（含、オンライン）
- SSA市場に関する情報発信

- 本邦企業や本邦研究機関による研究開発の場の提供
- 新技術適用可能性のほか、既存製品の現地適合性、現地製造可能性も検証



現調査による実績と課題（2）



AFICATの今後の進め方（1）

1. 以下の海外での機能は、出来るだけAFICAT Focalと共に実施する形へ
現調査で任命されたAFICAT Focalを中心とした実施体制と共に、現地での活動を実施する。

- ①当該国進出への助言：情報提供、技術的なアドバイス、等
- ②展示・実証・デモ：実施先の紹介・仲介等
- ③金融：金融関連情報収集・共有、等
- ④広報：本邦企業製品・技術の広報

2. 以下の国内での機能も、引き続き国内関係者の皆様向けに実施

- ①サブサハラアフリカの農業・農業機械関連情報の共有
- ②本邦参画企業情報のサブサハラアフリカ諸国への発信
- ③人材ネットワーク形成
- ④本邦企業の皆様への各種助言：重点支援対象国への進出を検討している企業の皆様を、AFICAT Focal、派遣中専門家、長期研修員等へつなぐ。

■ AFICAT支援対象国

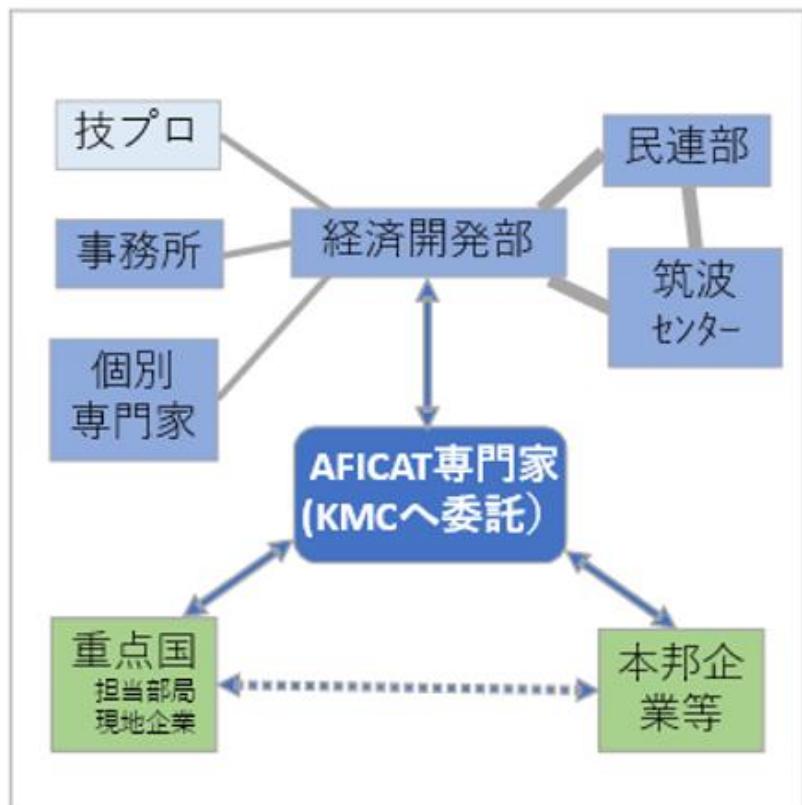
- ・重点支援対象国：5か国（タンザニア、ケニア、ナイジェリア、ガーナ、コートジボワール）→上記1. 2. とも実施。
- ・支援対象国：サブサハラアフリカ諸国→主に上記2. を実施。

AFICATの今後の進め方（2）

■ AFICAT調査チームから、AFICATチームによる実施へ

関係者が増えるため（特に海外）、AFICATチームとして定期的に情報共有しながら、各種活動を進めていく。

これまで



2024年2月～

